
ふとっ

十六夜 あやめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ふとっ

【Nコード】

N6388S

【作者名】

十六夜 あやめ

【あらすじ】

ひとりで家にいるとき。静かな中、瞳を閉じてみてください。きつと昔の音が聞こえてくると思います。

(前書き)

時間があつたので、書いてみました

大声を叫んだり

いちばん記憶にあるのは 波打ち際を走ったときのこと。

少し冷たくて はしゃいでいたっけ。

砂に足跡が残っては消えていって

それがなんだか楽しくて

笑っていたなあ。

きみの笑顔がまぶしかった。

夕日に負けないくらい

ほんとだよ？

夕暮れの空。

青とも群青とも 赤ともオレンジともいえない。

そんな空が大好きだった。

その空に浮かぶ雲があまりにもきれいで

思わず手を伸ばしたくなった。

でも、手は伸ばさなかった。

伸ばすべきは きみだと思ったから。

その日は手をつないで帰った。

きみの顔は夕日に照らされていたけれど

くつきりと はつきりと 見えた。

頬の染まった色まで

気持ちまでみえた。

きつとね？

別れ道で「ばいばい」って手を振って

ぼつぽつと灯ってゆく街灯を辿って

近所のおばさんとあいさつして

家に帰ると

お母さんの作ったシチューの匂いがした。

お腹いっぱい食べて」「しちそつさま」「って言つて

お母さんは「ありがとう」「って言ってくれ。

そんなおかあさんに あげたいものがあつた。

海で拾ってきた

小さな貝殻。

ポケットから取りだして

それをおかあさんの耳に近づけた。

すると 「波の音が聞こえるわ。いっぱいあそんできたのね」「つて。

わたしは こんな幸せがずっとずっと

続いてほしいと毎日つぶやいてから布団に入って

長い休みに入ったら実家に帰ろう。

きみに会っているいろいろな話がしたい。

そして

たまにおかあさんのシチューが食べたいな。

(後書き)

面白くもないし、何が言いたいのかわからないと思います…。
ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6388s/>

ふとっ

2011年4月22日22時40分発行